

経済レジリエンス

economic resilience

(for チャンネル桜 H25.10.12)

京都大学大学院教授

京都大学レジリエンス研究ユニット長

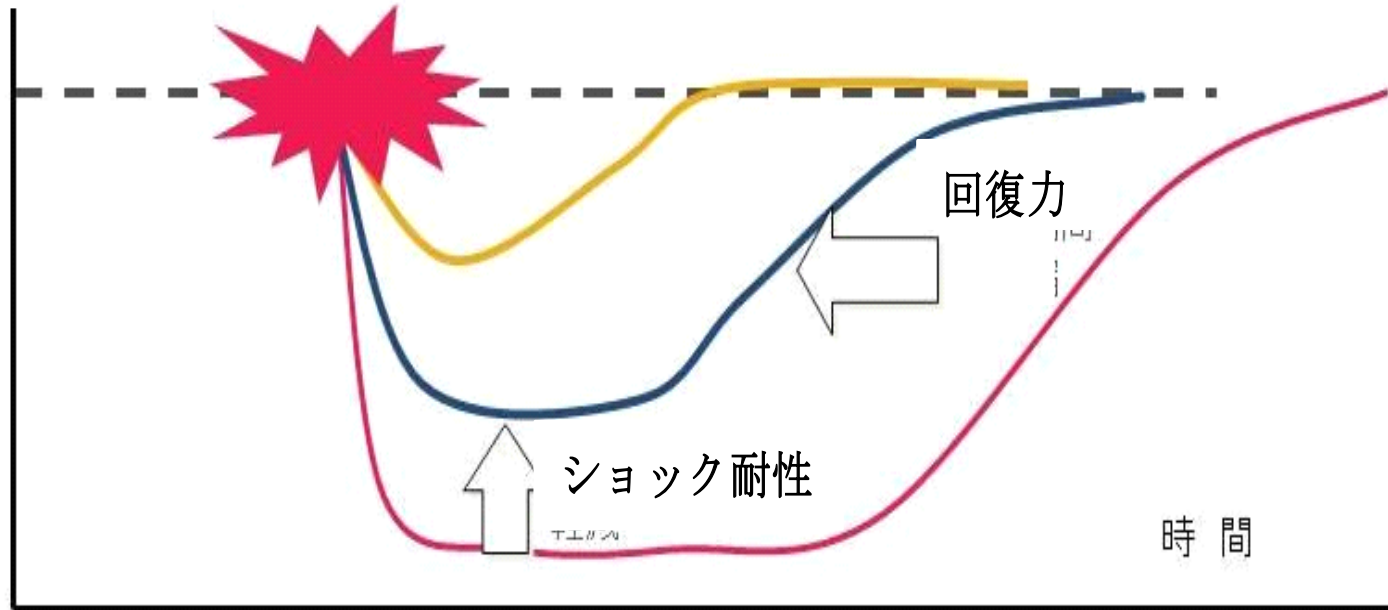
内閣官房参与(防災減災ニューディール担当)

藤井 聡

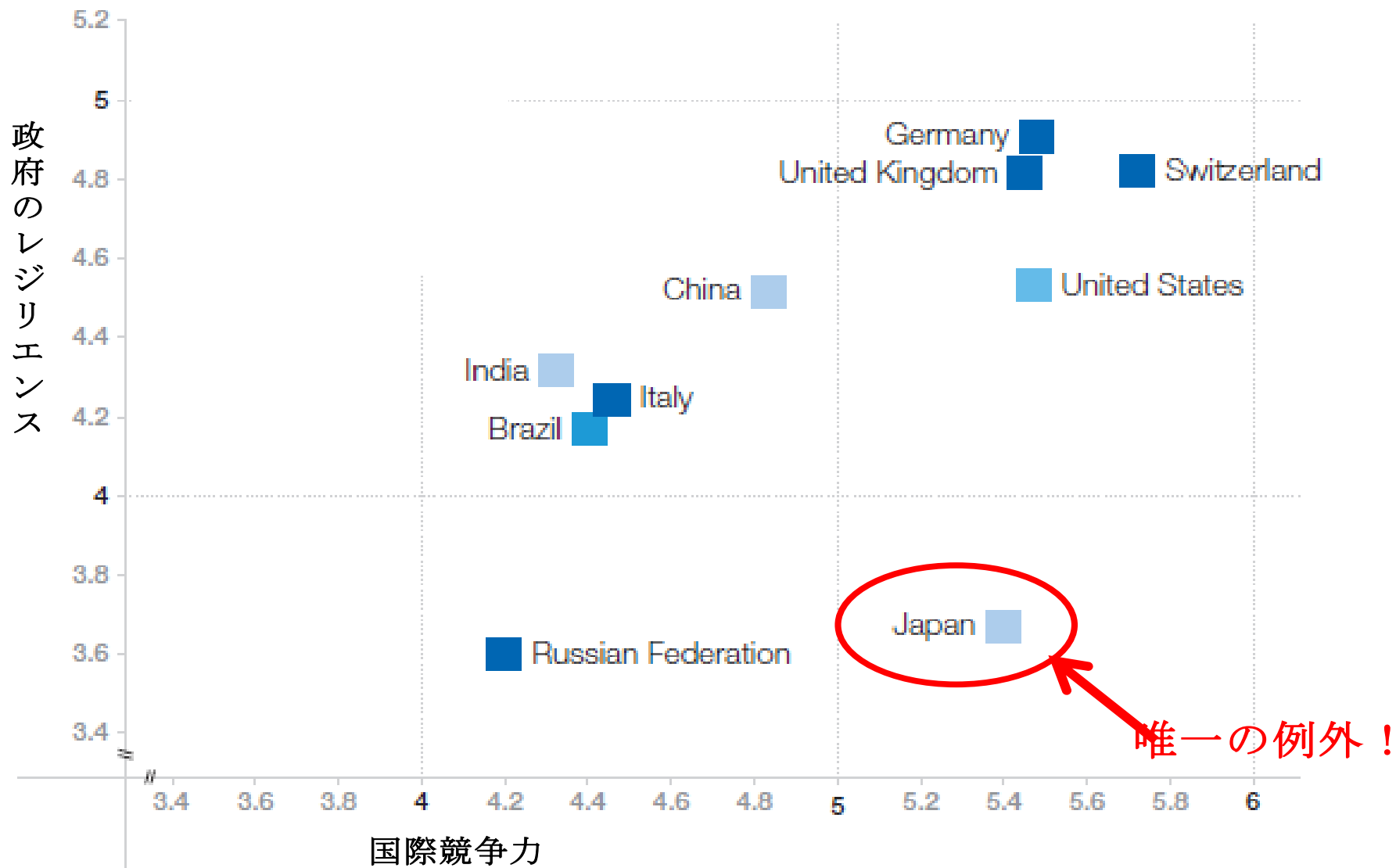
活動レベル

危機勃発

通常のレベル



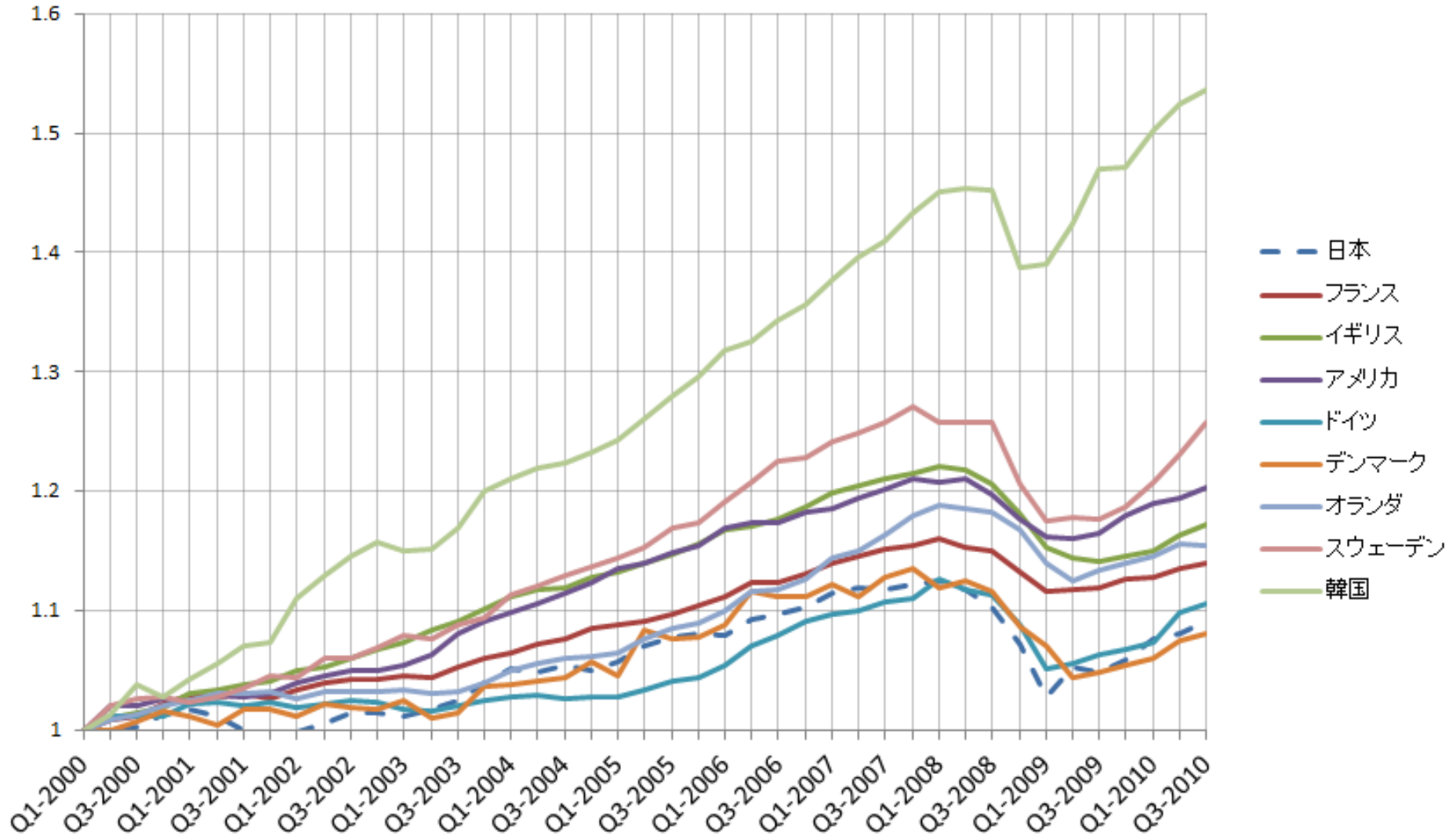
「レジリエンス」のイメージ



- ①レジリエンスは、国際競争力の源
- ②日本は、レジリエンスが低く、損をしている！

脆弱な日本経済 (リーマンショックで大打撃)

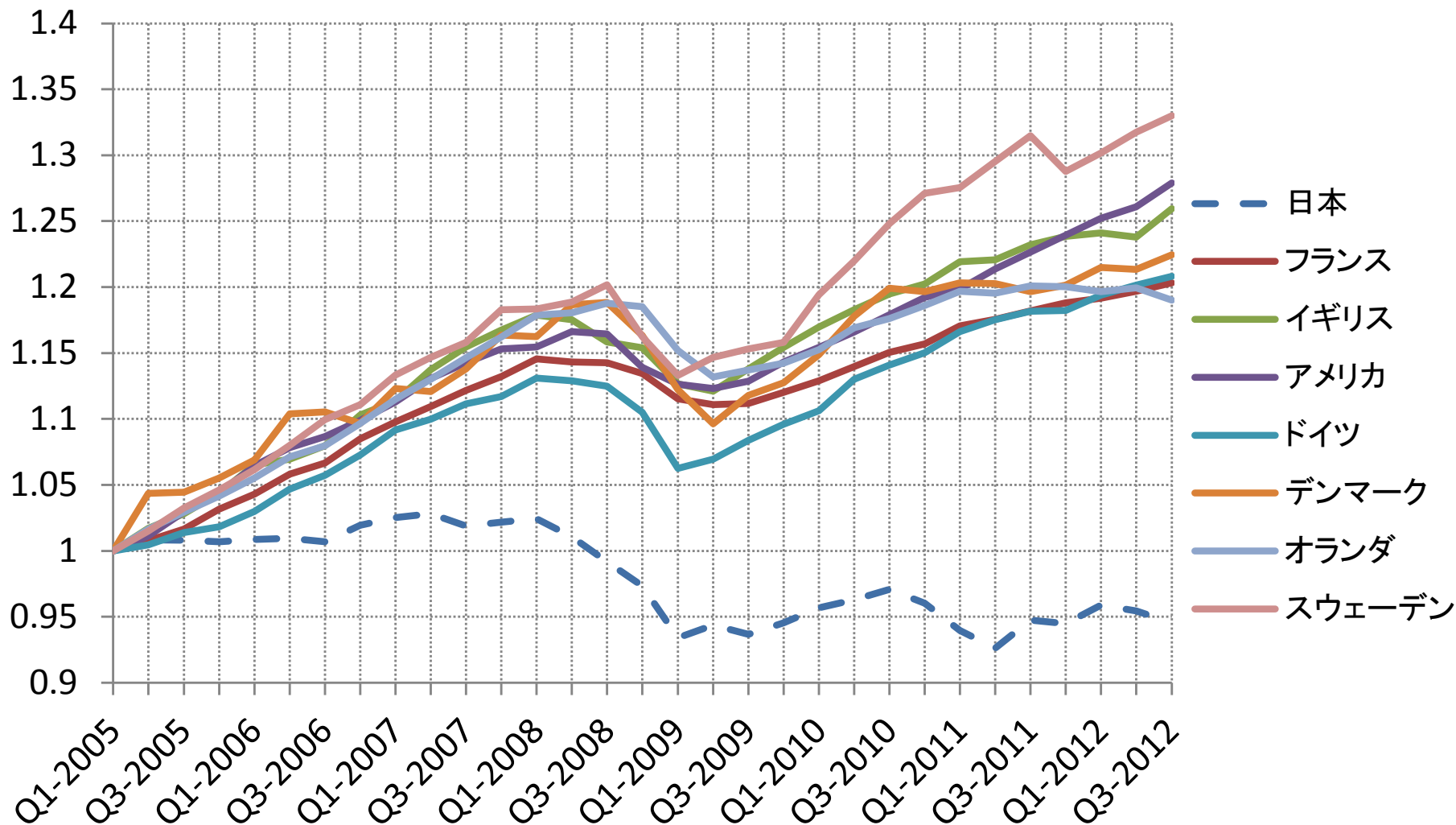
(※ 2000年第一四半期を1とした場合の実質値の推移)



出典: OECD Quarterly National Account

脆弱な日本経済

(リーマンショック後、最も回復していない)



注1: 自国通貨建て名目GDP

注2: 2005年1-3月期を1と基準

出典: OECD National Quarterly Accounts

Q1: 1-3月期 Q2: 4-6月期

Q3: 7-9月期 Q4: 10-12月

「何をした国が、リーマンショック (=需要の急激な収縮に伴う経済被害) から早く立ち直ったのか？」分析

説明変数	標準化係数	t	有意確率
(定数)		2.062	0.048
Ig変化率	0.446***	2.798	0.009
MB最大変化率(-Oct12)	-0.108	-0.675	0.504
従属変数: 実質GDP回復率			
R=0.470			

説明変数	標準化係数	t	有意確率
(定数)		3.143	0.004
Ig変化率	0.412**	2.440	0.021
MB最大変化率(-Oct12)	0.112	0.664	0.512
従属変数: 名目GDP回復率			
R=0.420			

説明変数	標準化係数	t	有意確率
(定数)		-0.231	0.819
Ig変化率	0.389**	2.342	0.026
MB最大変化率(-Oct12)	0.126	0.761	0.452
従属変数: 失業率回復率			
R=0.395			

R:重相関決定係数 *p < .1, ** p < .05, *** p < .01

説明変数	標準化係数	t	有意確率
(定数)		2.19	0.036
Ig変化率	0.486***	3.08	0.004
MB最大変化率(-Oct12)	0.123	0.782	0.440
従属変数: 実質GDP変化率回復			
R=0.488			

説明変数	標準化係数	t	有意確率
(定数)		3.753	0.001
Ig変化率	0.498***	3.196	0.003
MB最大変化率(-Oct12)	0.150	0.960	0.344
従属変数: 名目GDP成長率回復			
R=0.505			

統計分析の見地から言うなら...

「財政政策」は効果有り

「金融政策」効果は検出できず

(あっても、限定的なのだろう...)

「どんな国が、リーマンショック(=外需の急激な収縮)の被害が大きかったのか？」分析

表 4.4 実質 GDP 変化率と説明因子の相関関係 (主要先進国と準先進国)

No.	説明因子	四半期別実質GDP 変化率 (2008Q3→2009Q1)					
		主要先進国グループ			準先進国グループ		
		相関係数	有意確率(両側)	n	相関係数	有意確率(両側)	n
1	輸出入対GDP比	-0.131	0.629	16	-0.221	0.410	16
2	輸出額変化(97→07)	*** -0.723	0.002	16	-0.131	0.628	16
3	燃料純輸出対GDP比	** 0.500	0.048	16	-0.119	0.662	16
4	食料純輸出対GDP比	0.261	0.330	16	0.212	0.431	16
5	エネルギー自給率	** 0.544	0.029	16	-0.085	0.754	16
6	製品純輸出対GDP比	*** -0.810	0.000	16	-0.259	0.332	16
7	物価上昇率(97→07)	* 0.494	0.052	16	** -0.592	0.026	14
8	GDPデフレーター	** 0.604	0.013	16	-0.309	0.244	16
9	政府支出対GDP比	-0.199	0.461	16	0.251	0.348	16
10	HDI	0.276	0.300	16	** 0.559	0.024	16
11	TRUST	0.092	0.735	16	0.344	0.192	16
12	CIVIC	-0.027	0.921	16	0.360	0.171	16
13	公的固定資本形成対GDP比	-0.207	0.459	15	0.064	0.860	10
14	金融深化	0.151	0.591	15	** 0.634	0.049	10
15	GDPの変化率(97→07)	-0.210	0.453	15	-0.192	0.477	16

***:1%水準で有意(両側)

** :5%水準で有意(両側)

* :10%水準で有意(両側)

「脆弱」だったのは...

- ①機械製品輸出をしている国
- ②輸出依存を進めた国
- ③デフレの国
- ④エネルギー・食料自給率が低い国

→日本、最弱伝説！

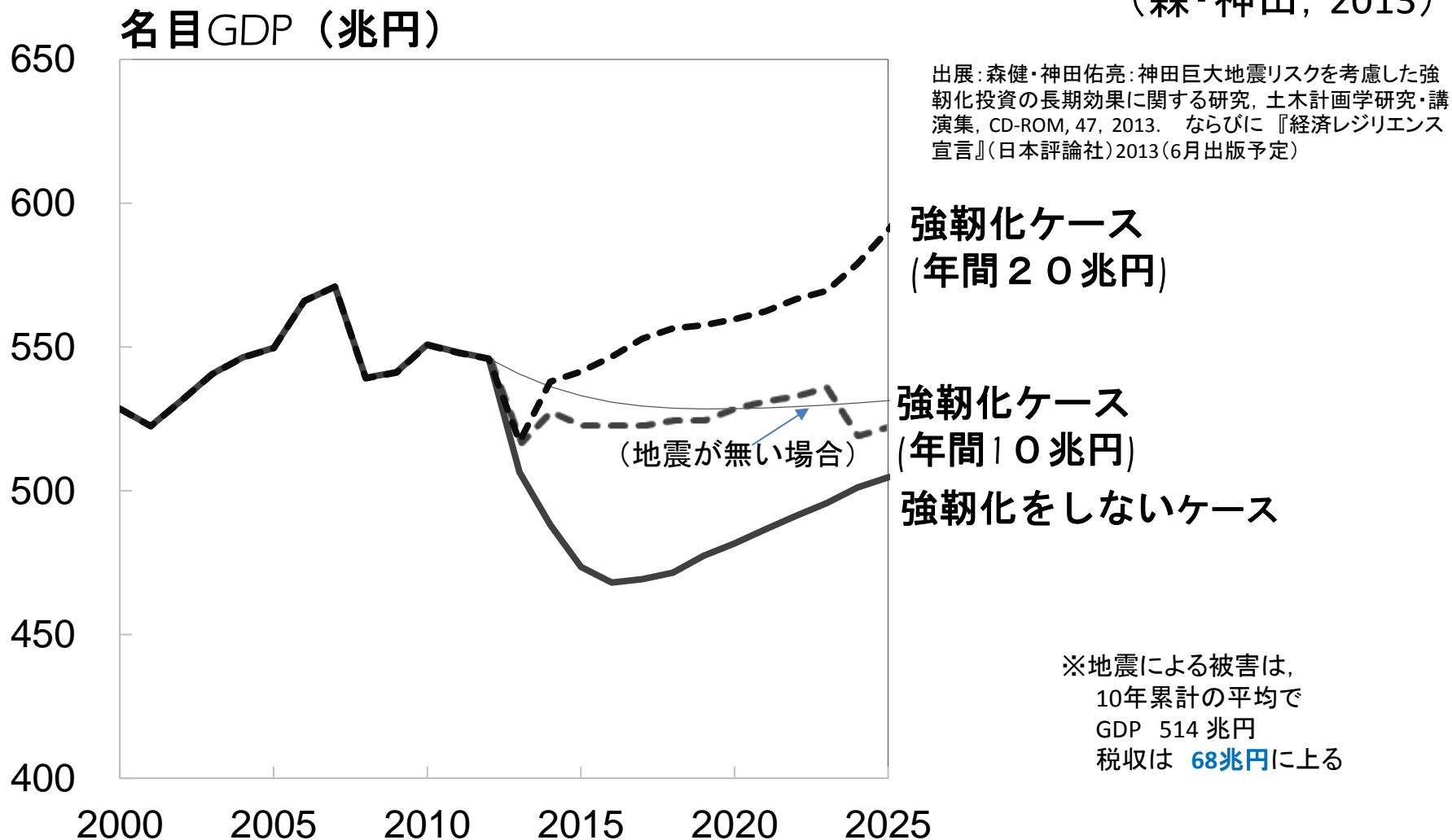
日本の経済強靱化を目指すなら、
デフレを脱却し、輸出依存を下げ、食料・エネルギー自給率を上げるべき！
(=需要、食料、エネルギーを全て自前調達すべし！)

これから予期される経済ショック

- 消費税増税（内需の縮小）
 - 公共投資の過剰縮小（内需の縮小）
 - 日本の「グローバル化」「新自由主義社会化」
（失業の増加／雇用の喪失／内需の縮小）
 - EU 経済危機
 - 中国 経済危機（シャドーバンク問題）
 - 韓国 経済危機
 - 首都直下地震・南海トラフ地震
（オリンピックまでに少なくとも一方が起こる確率約**40%**[ポアソン過程を想定した場合]）
 - 中東危機
 - 資源の輸入価格高騰
- 等

強靱化が日本経済に及ぼす影響のシミュレーション分析

(森・神田, 2013)



強靱化の投資効果(以下は, 10年累計値)は.....

200兆円の投資で, GDP累計 710兆円増 税収118兆円増
100兆円の投資で, GDP累計 410兆円増 税収 46兆円増